

会報

No.25

静岡県公立高等学校PTA連絡協議会

もくじ

- ◇ 高校PTA総会
- ◇ 講演「青少年を考える」
- ◇ 高校紹介 静岡農業高校
- ◇ 東海4県会議
- ◇ 指導者研修会（5月20日）

鈴木 一	野田 元	金子 正三	長尾 敏一	山本 長恵	竹内万寿夫	大石 順三	佐藤 文美	影島 西男	秋田 八平	神谷 美
前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
磐田農業	土肥高校	修善寺工業	池新田高校	下田南高校	気賀高校	榛原高校	御殿場高校	沼津商業	島田商業	静岡農業PTA会長
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

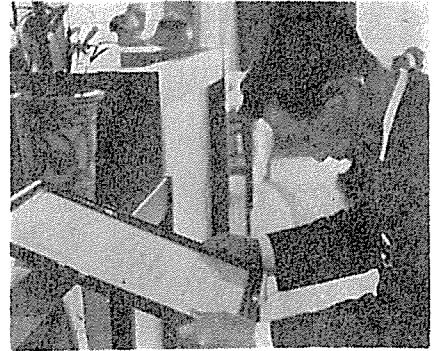
表彰に輝く人々

(十一名) (敬称略)

躍進する高校PTA総会に

「青少年を考える」の特別講演と

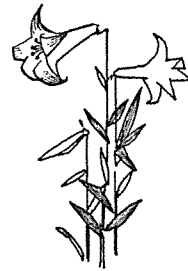
功労者に感謝状



(表彰に輝く人)

昭和三十七年、創立された、公立高等学校PTAの総会は、第十回を数え、六月四日、静岡県教育会館に開催された。

午後一時開会、藤森会長のあいさつに続いてPTA会長として尽瘁された方々へ、感謝状が贈られた。



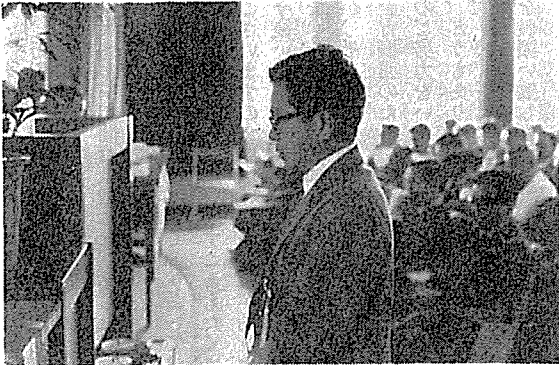
あいさつ 藤森会長

本日の総会には天候の悪いところ、大ぜいお集まりいただき、ありがとうございます。四十五年度の仕事も皆様のご協力によりまして一切が完了いたしました。心からお礼申し上げます。有難うございました。昨年は研修に明け暮れたということになりますが、これからもまた、よろしくお願ひいたします。

本会が発足してから、もう長いことでございますが、私も荻野さんが会長をおやりになりました時、そのもとの仕事をさせていただけまして、現在まで皆様にいろいろとご厄介になりました、しかもその間皆様に無作法な物の言いや態度で接しまして、失礼を致しました点もお許しをいただきたいと思ひます。

何と言いましても、PTAの基本の目的といひますか、私が一貫して考えて参りましたことは、子弟の指導も必要であります、親自らが教養を高め、知識を広く求めていかなければ、子弟の指導は不可能だといふことに考え方を置きまして、明けても暮れても先ず自分の研修を重ねること、といふことで、研修を進めて参りました。

その間におきましては、あの生徒の政治活動に捲き込まれたこともありまして、考えてみますと、全国高P連副会長としても大変な時を通過して参りましたが、更に静岡県では、全国のどこにも無いような形で研修を行ないまして、既に二年間、県からも二百万円という研修費を出していただきました。これで、各地区ごとに、きめの細かな研修をいたして参りました。その効果も大へん大きかったと私は自負しております。



(謝辞を述べる代表 長尾敏一氏)

こういうことは、文部省でも気になりましたか、今年から予算化していただきまして、四十六年度から更に研修を深めていくことになりました。今まで私達が考えてきたり、やって参りました、一番いいことであると思っております。

私も自分は好きなことや勝手なことをして、子どもだけよくしようといっても、それは不可能であります。先ず、自らが姿勢を正し、教養を高める、その上で青少年を指導するのだからならぬ。青少年の不良化防止とか、対策とか、言っておりますが、私は何か本末を誤ってはいないだろうかという感じをいたしております。

今日なるほど、青少年対策、不良化防止を立てることは必要でしょう。けれども、それに当る人が一体どうであるか、私は、今日の青少年を指導するにはもっと研修をしなければ、青少年を引張るだけの資格があるのかどうか。そう考えた時に、我々父兄としても、そういうことをつくづく考えてみまして、もう少し、現代の社会に対応して、社会情勢と一緒に歩くような勉強をしなければならぬ。私は各所でいつも言っておりますことは、古いとか若いとかいう話はありませんけれども、そりゃ三十代の人でも二十代の人でも、よほどぼした老人がたくさんおります。それは今日のよう目まぐるしく、どんどん進展している社会の中で、一日遅れれば一日年寄りになる、二十代でも、世の中とかけ離れたような考え方を持っている人は、これは年寄りなんだ、七十であっても、八十であっても、社会と共に歩いている人は青年だろう。水の流れても、流しておけば、清らかな流れであるけれど、一旦止めておいたら、これはボートが濁り泥水になりますよ。

最近誰も彼もやかましく言っている社会教育を通して、いわゆる生涯教育かも知れませんが、そういう意味で青少年を導いていく必要があるだろう。これが私どもの本当の姿である。施設を作るための後援会的なPTA活動も戦後においては太へんやっ参りましたが、県でも非常に理解してくれまして、利子補給等の道も講じてくれますし、追々財政も大きくなって参りまして、私どもの会が発展するようにご努力をいたしておりますことは結構なことであります。

我々はどういう後援会的色彩も必要であるかと思ひますが、本来の姿に立ち返って、良い人を作る、善い社会を造る、これが社会教育の組織の中の一つの団体として、今後そういう方向でいかなければならぬと



(祝辞を述べる竹山知事)

思っております。特にこれからは人間的非行、万引、性犯、交通事故等に重点を置くべきだと思ひます。

大へん一年間お世話になりました。なお私には、長い間皆様と共にこの公立高等学校PTAの仕事をして参りまして、この間いろいろと、思い出すこともたくさんございますので感が深いものがあります。今後いよいよ大事な時になって参りますので、その本当の姿に立ち返ったといひますか、そういう形で、今後一そう、高等学校教育振興のため、新役員を中心として一層のご努力をいただきたいと思ひます。

どうもありがとうございます。それでは只今から日程に従って提出議案の諸審議をお願い致します。

祝 辞

竹山知事

政治の基礎を成す教育、殊にその中心である高等学校教育を進めるために、それぞれ地方の有力な皆さんがたには、大へんご苦勞をお願いいたしております。

ご覧のとおり、静岡県教育というものが日に日に進んで参りましたことは、ご同慶にたえないと同時に、これは皆さん方のご協力の賜として厚くお礼申しあげます。

日本が今日、予期しない繁栄を築きあげたのは、明治維新の政治家が当時の日本では、身分不相応ともいえる教育をやったからだと言えます。日本を作りあげる原動力は立派な教育の効果です。

日本が島国で資源もないという短所を長所にかえて、世界中の資源を安い船賃で持ってきて、製品を世界中に出してやった。

こうした国民の力が、今、世界中の視線を集めている。

私が中国へ行つた時、まだ革命も何も無い時期に、小学校から大学まで幾つも見ました。その時、上海で小学校の就学率は九七%だという。「そんな馬鹿なことがあるうか、あなたの国は何千年来、ごく金持だけの教育をやってきた。大改革をしたからといってわずかの間に九七%の就学率なんてあるわけがない」と、言ったら「いやそうじゃない、そのとおりだ」と。

その日の夕方、町を歩いていたら鮑を持った子どもがぞろぞろ町を歩いてた。説明によると「とはいももの、学校もなけりや教科書もない」と正直にいうんです。「それは無理だ」というと、「今までは特権階級だけの教育だったが、国が全国民を教育するんだ。それも一度に教育するのだから無理の多いのは当然なんだ、然し無理にももつてみるんだ」と言っておりました。

郭沫若も農村に行つた時「我々のやっていることは、あなたの方のやっていたことを今、そのまま見習つてゐるつもりだよ」と。然し、今考えてみると、毛沢東という人は、もと小学校の先生だったので、教育に熱心だ。

文化大革命というのは、政治の締め直しなんだ。あれは国民運動で起つた騒動じゃない、悪く言えば学生を先に立てて民族を引きしめた大教育運動なんだ。

大人をしぼりあげて、道を正した。その間にアメリカに対しては「来るなら来いおれたちは警備大勢をとっている。要するに中国の考え方の根本をなしているものは、何千年間のだらしない民族をひきしめて、人間改造をしてかかる。そうして遅れをと

り戻そうとしている。

これを見ましても、政治の根本というか、国が興るか、興らないかという根本は、教育だということなんです。

だから遅れたアジアが、日本あるいは中国をまねて、教育に夢中になっているんです。それができないなら国家の繁栄というものがある筈がない。

ところで、問題は今の中国の例だが、毛沢東が、あの時期に思い切った、あんな乱暴なテストをやったということは、政治に自信があったからです。

中国を動かしているものは、二万人程度だろうと思う。あの膨大な約八億の人口を抱えておりますが、あの国の悩みは、二万人人というものが、いつまでも生きていくわけじゃない。この後を受けつぐものが、中国として一番大きな問題なんだ。

若い人々に、あの文化大革命で体験させて、生やさしいものでないことを学ばせたのだった。

日本も同じで、戦後生まれた今の青少年は、いくら理屈を言たって判らないのである。

アメリカで今評判のベストセラーズに「太陽は昇る」という本があるが、その巻頭に軍服姿の日本の天皇の写真が載っている。

筋骨は、日本の天皇が戦争をやめさせ、敗戦で飢に苦しむ国民を、外国から食糧を購入して救ったのだ、日本が天皇を置いていなければ、将来、政治の安定はあり得ない、というものである。

日本人は独自の、将来に対する考え方を、腹を据えてやらなければならないと思う。そういう意味から、文部大臣が今考えている教育改革は、日本における三度目の大改

革だと言う。

日本は経済的にここまで発展してきたが、日本は負けた国だ。諸外国も、初めは憎んだが、その後は憐れみを持って、まあ、敗戦の国だ、大目にみてやれ、という感じで接してきたと思う。しかし、今や、恐怖の的になる経済大国にのし上がった。

だから「太陽が昇る」という本が売れる、日本というのは、一体、本体は何である。日本民族に対する非常な関心が高まっている。警戒され出している。日本人に、自覚すべき大事な時が訪れている。

そこで、私は今度の世界ジャンボリーに大きな期待を持つ。つまり、国際的な感覚を持ち、言葉が通じなくても、世界中の子どもたちが膚で感じ合ひ、日本人は自分の責任というものを自覚する、最もよい機会だということだ。

どうか、温く迎え、正しい日本を理解するように、また、日本のよきを知って貰うように、ご協力をお願いいたします。大へん長く申しあげましたが、ご挨拶いたします。

(紙数制限により省略したことをお詫びします)

祝 辞

諏訪教育長

「PTAの研修は昨年まで高P事業であったのが、国の補助金の関係で県の仕事になりました。自主的に行なおうというお考えに添おうとすることには変わりありません。

教職員給与等特別措置法については、二十四日(五月)参議院を通過いたしました。超動手当は出さないが、超勤を命ずること



(祝辞を述べる諏訪教育長)

とができますが、その命ずることのできる場合は教職員の健康と福祉を害さない程度において文部省が人事院と協議して定めることになっていきます。県では国の基準に従って、県条例でそれを定めることになっていきます。

最近、高校の火災事故がありました。宿日直等問題点が多いが、火災予防に教育委員会事務局としてもっと体制を整えて、万全を期していきたいと思えます。学校当局でもこの点一そう火災予防には留意していただきたい。

なお、最近、非行の増加が目立ち、交通事故が相続いております。非行をどうしてなくすか、交通事故をどうして防ぐか、私どもに課せられた重要な課題でPTAのいろいろ論議を尽くして、防止に努めるべき問題だと思えます。時間もありませんので今日は、次の三つを申しあげまして、ごあいさついたします。

この後、議事に入り、昭和四十五年度の

事業報告、決算報告、監査報告があり、昭和四十六年度の事業計画、予算案が提出され、いずれも承認された。ついで、役員改選となり、選考委員会が開かれ、次の方々が役員となった。

(敬称略)

- 会長 中野 東三(吉原工業)
- 副会長 大河原二郎(沼津東)
- 理事 鈴木 一夫(藤枝東)
- 久野 幸夫(浜松南)
- 藤井卯兵衛 富岡 弘
- 原 新次 鈴木 鉄弥
- 鈴木 一 鈴木 正一
- 望月 信彦 山本 琢磨
- 永田 正雄 竹島 利郎
- 田崎 敬治 戸塚 宏
- 藤原 清 寺田 貞
- 藤森常次郎 加藤 達郎
- 石野 定富
- 遠藤永太郎 川村 吉男
- 鈴木 賢一



(新任の挨拶をする中野会長)

あいさつ

中野東三

一言、ご挨拶を申しあげます。私このたび、図らずも会長に推薦をいただき、遂にこぼみ得ず、一応お受けしたような次第です。しかし、考えてみますと、高校教育の問題はいよいよ重大性を加え、文部省も、慎重に社会教育の一環として、考慮を払っているもののように思います。前会長、藤森先生のご功績は誠に大きく、感謝と敬意を表するほかございません。私ごとき到底及ぶべくもございませんが、折角のご推薦を謝し、あらん限り尽力したいと考えます。どうぞ、各方面からのご鞭撻と、会員各位のご協力を、ひたすらお願いいたします。新任の挨拶いたします。

【特別講演】

青少年を考える

——その非行と心理——

静岡少年鑑別所長 島津貞一

少年鑑別所の小さい窓から見えますと世の中の裏と申しますか、或いは却って表の動きが見えるようです。毎日のように入ってくる少年達、非行のある少年。一体彼等はどんな風によくはないのか、又はどんな風にこの年頃の他の若者と違っているのだろうか。

(序)

こういう少年がいます。S君、年令は十八才です。六才頃に父母離婚で施設に収容され、中学校に入ったものの非行が重なり鑑別所に入所——少年院に送られ、その後

上京、某工場に就職。お定まりのように仕事がいやになりヤメて転々とし——ポンド吸引——で東京少年鑑別所に入る。同じ事を何回もくり返し今度は放浪、盗みで当所に入る。申し上げたいのはこういう歪んだ育ちの少年が、お母さんの事が忘れられない(母は今四十才、やきとり屋をやっている)いつでも、何回も、母の許に手紙を出し、また時に送金もしている。けれども母からはナシのつぶて。母へのきっかけを作ろうとしている努力、なのですが——。

この頃の少年達、共通して言えることは、無気力、だらしない、知能の方は低くはない、一つ仕事やり終らせない、不満が非常に多い。こういう連中、我々は四週間のうちに鑑別し、いろいろ指針を出さねばならないのですが、どのように、普通の少年達と異常さの違いがあるのか？

(一)

永山則夫、この六月で二十二才になるあの連続射殺魔といわれた事件の男、当時十九才で、横須賀の米軍キャンプから盗んだピストルで東京芝のプリンスホテルでガードマンを射殺し、ついで京都八坂神社で、またすぐに函館で自動車の運転手を殺し、名古屋でも同じく、という一ヶ月のスピード殺人をやっている。その彼が最近「無知の涙」という本を出している。「親子間に愛情は必然的なものだが——教育を匡正すべく——人間の一生からみれば、それはあまり重要なものではないと思う」「性質や性格が形成されるのは五才児までに——たった五年間に……」

「私は囚人の身となり、もはや遅しである。世の中ままならぬである。このような大事件を起こさなければ一生涯ただの牛馬で終ったであろう」そして無知、ということについて長い詩があり

……人格を有する方には無知はない。誰もが無知を消したがる。かくしたがる。

やれば出来る、先生と呼んだ方々に必ず言われた言葉だ、漠然と意識はしていたが、はつきり認識

はせなかつた……(略)

自分は学問はやらなかつたけれども自力で発見した。自力で、独りで——学問から



(講演する島津所長)

の解放——ともいっている。

めぐまれない家庭の子、中学校でマラソンで優勝したのが誇りになること位で、成績は中の下、絵が好き、弘前でリンゴの剪定職人の父は飲んだくれで北海道網走へ渡り、貧窮の生活、母は行商で、一家数人を支え切れず、少年は七回の転職や家出や、定時制高校へも入ったけれども。横浜や宇都宮の鑑別所に入所して……ということが出てくる。こんな大それた事件をやる人間など、と診断出来なかつた鑑別所は残念ですが、今東京拘留所にもすごい読書量でマルクス、フロイト、カント等、文学、哲学その他に及んでいる。私の申し上げたいのは、こういう本を書ける能力や、読みこなしていきける彼の才能とは何なのであるのかということ。そして殺人の動機は？

×

対比されるのは山下清のことです。清君といましよう。もし彼が今少年期であったなら児童相談所、鑑別所、少年院——そして刑務所に、と考えられるかも知れませ

ん。それ程、環境も一般知能もすべての条件に恵まれず、でも市川の八幡学園に収容され(勿論戦前の事です)久保寺さん、早稲田の戸川先生、そして安井〇太郎、小林秀雄ら、その他の画伯にも認められて——今日に至った次第です。(四六・七死)

清君の持てる才能を引出して今日のように日本のゴッホとか言われるようになったのは一人一人の持つ個性の理解によるものです——。比べて永山則夫の場合は今日の「病める日本」の人間疎外——でしょうか

(二)

話を転じて最近の若者、少年達について考えてみたい。この四月十九日付の官報で「中高校生の非行」について述べられています。進学は過度に多い。けれども競争に取残された者の非行に問題がある。中学生に窃盗が圧倒的に多い。共犯も多く成人の三〇%に比べて少年は六五%となっている。また場合によっては学校内だけでの処理は不適當だと。そして愚犯、不良行為に微妙な差があり、最後に関係者当局の連絡を緊密にと結んでいゝ。

同じく新聞の報ずる資料の「青少年の連帯感などに関する調査」より法律軽視が五〇%、その日暮しの考え方や、社会の問題についての無関心が注目されます。そしてシンナー、麻薬等に至っています。

我々が関与している少年達、その中で目立つのはこの頃は、自動車運転関係、性非行、それからシンナー等の薬物、窃盗、最後に暴力(障害等)の五つがあげられます。これは今の社会の動きの特徴を裏付けているようです。

X

一体こういう悪い事をやった少年達の持つ特徴は何だろうか、体の外見など少し参

考になりますので申し上げますと、身長は低いが体重が、胸囲に比べると大、握力、背筋力は低い。特に女子はズングリ、ズンドウ型ですね。つまりかっこよくはない。知能の方は普通の少年と比べてIQでは十年前後は低い(平均)。性格は気分異変、やや抑ウツ的、協調性を欠く、劣等感が目立つ等となっています。

X

更にこういう事にお気付きでしょうか。東京の鑑別所のしらべでは、入所少年の中で、男子の三〇%、女子の五〇%以上がかつて非行犯罪被害者であったということですから。つまり非行のある少年は一般の少年に比べて被害率が高かったと言ふ事です。これは何を表わしているのでしょうか。

ある殺人事件のケースを申し上げますと(ケースの内容略)——同僚少年から脅かされ、ついに電気コードでその少年を絞殺したという十九才の例、又女子の例を申し上げますと、同棲した男から度々お金を巻き上げられるのでその男から逃げようと考え、ナイフで殺したと言ふ十七才の少女。

こんなケースが代表されるとは思いませんが考えていただきたいのです。

さて、我々の鑑別所でのことですが、我々のところでは「親子の断絶」「シンナーポンドについて」等、毎月思ったままを書かせていますが——親子の断絶なんてのは一部の家庭である、もつと話し合えばよい、けれども、やはり父親に努力を、といっているのが目立ちます。シンナーについても、あんなもの、という少年が多いのに一度経験したら、やはり続けてやってみたくなる。とかやめられない、とか、しかし

一部特別の人だけでそういう人はおかしいのだから。とも言っています。大体幼稚な表現ですが以上のように言っています。

X

我々は学校への考え方として「青少年問題」という機関誌に「学校が自主制、人間性、自由とかの尊重ばかりを重視して自己を抑制し、自己を統制し、必要な時は自己を犠牲にして他の人、或いは自己の所属する社会につきすべき必要があることを十分に教えないことを申し上げたい——これは現代の青少年問題の中核である」と、述べられている事をあえて申し上げます。

この前県内、西の方の高校で集団万引事件があり、その生徒〇君についての依頼鑑別がありまして、我々の方で参りまして調査しましたが、異常の生徒は二三名で大半は別して、というようでした(十八名)その処置について科学的な調査手続をとるという事は、若者に与える受け取られ方はよいのではないかと思います。

X

さて、薬物、シンナー等についてですが、これはシンナーそれ自体は有機溶剤ですからそれを取扱う側に問題があるわけですから(LSD、マリファナとは少し違いますが——)、私が知りましたデータでは、し癖性のある者とそうでない者、又独りでやる者と集団でやる者、更に、非行と結びつきのある少年と、フーテン等のようにそれだけでフラフラとやっている者、その他のいろいろのパターンになりますね。またこの頃は無職、徒遊という連中から高校生、中学生へと、生徒への層にも拡がってきている、という風に幅が広がりました。

これからの問題の焦点でしょう。一連の薬物のし癖という事です、あの大変な問

題を呈供したヒロポンに始まり睡眠薬へと移行しまして、そして今はシンナーポンドへと。つまりは注射のヒロポンから錠剤、経剤そして吸引するという、嗅いでその刺激に入るといふ変化に注目しなければなりません。これはどういふ事でしょうか?

SEXの非行についてはこの間から大騒ぎになっている大久保清の事もありますが、私は前橋でこれも性の被害者の調べをやりました。なかなか十分にやれないのですが、加害者と被害者の両様を知る事の大切さを味わったのです。この頃は大変オープンになりました。けれども、やはり性の知識については未熟です。先年ヨーロッパに参りまして、フリーセックスの国デンマーク、といわれるあのコペンハーゲンで聞いた見たりしたのですが、向こうの人の曰く(今の若い人はおネネするのが上手ですからね)という。つまり、他人に迷惑をかけないという事らしいです。病氣も妊娠もわきまえていゝ、という事でしょう。今の日本のセックスについての見方など大変違っているなと思いました。

(三)

さて、いよいよ我々の最大のテーマですが、一体、この非行とか犯罪についての予測や見通しはどうなるのか、という事ですか、また愚犯とはどういふ事なのだろうか、というのもむづかしい事に違いありません。とりあえず非行予測という事について申し上げますと、シエルドン・グリックという学者のあげている数々のファクターがあります。(A)父に依る少年の誤、(B)母による少年の監督、(C)父の愛情、(D)母の愛情、そして、(E)家族の結合、これの点数の高低がキーポイントです。更に(B)ロールシヤハテスト、(C)パースナリティの特性と

いう事も併せて組み入れられ、予測可能と言われています。こうした組合せを科学的な手続きによって一例一例検討すればよいでしょう。

我々は非行予測等というむづかしい要素を考えなくてもその前に少年期には誰しも「悩み」「相談事」のある事は通常です。ところが東京都の調査でも、秋田の高校生、神奈川の中学生でも同じように表われているのは、悩みのない生徒は一〇%もない。また誰に相談するか、打明けるかについても父母よりも友達へ。であり、また先生よりも知った親しい人である、という事にこの少年期の人間関係の特性を示していると言えます。

言葉使いが生意気になった、服装が急に変わって来た、まともに父母に顔を向けない等、いろいろの兆しがあります。非行予測でなくても、こうした様子について学校、家庭は注目して欲しいものです。

(四)

最後に申し上げたい事の一つに、「悪の教育」という事があります。世の中は善の世相ばかりでなく逆です。善の教育をする中味に悪についても教えたら如何なるものでしょう。酒、たばこ。用いれば善となるし、下手すれば悪になる。あまりにもこの少年達はもとより、未青年はウラというものを知らない。為に被害者から加害者への%が高まると高い。少年院の院生がこんな事を言っています。「マスキ、OK、悪書ナイス」「悪に染まって這い上がれない者は本人が悪いんだ」等々と言ひ、また、「大人は悪い事を上手に楽しんでる。青少年にはやるなというのはおかしい」とも。性についても鑑別所に来る少女達、全くいい加減な知識で、薄っぺらな遊びの一

種位(?)にしか受け取っていないのではなにかと思われれる位です。強姦事件で入って来る少年でも事の重大さを初めて知ったというふうです。

我々は鑑別所の一隅からこうした非行の少年達に日夜接しているのですが、個別的に、違った問題を持つ若者が、全く放ったらかしにされている状態に、初めは驚き、

ショックを受け、この頃は少しずつ諦め、悟りかけ(?)でも、等と。とにかく非行と愚犯、この青少年達は自分でどうにも問題解決のメドがあまりにも欠けているのです。我々大人の、そして、先輩の指導と努力を大いに要望するもので、今がそのチャンスだと思ひます。ご静聴ありがとうございます。

(高) (校) (紹) (介)

——わが校の誇り——

静岡県下の公立高校は八十七校、
郷土の明日を担って、やがて社会に
雄飛する生徒は、今、それぞれの誇
り高い学園に、学び続けている。

見事な環境と 活発なPTA活動

静岡農業高等学校

〇概要

静岡鉄道の静岡清水線電車で古庄駅下車すると、五分と歩かないところに、県立静岡農業高等学校がある。校門をくぐると真直な沿道、両脇に今を緑の見事な並木

並木が続く。更に色とりどりのバラの並木が続き、やがて、本館四階建の正面玄関に出るが、玄関前には大きな池に築山を配した日本庭園があり、池には数百尾の錦鯉が遊泳している。日本庭園に相対して各種の噴水を配した洋式庭園があり、まことに見

事な教育環境であるのには驚かされた。うらやましい限りである。(築庭は造園科生徒の実習作品であるという。)

この学校は大正三年、曲金の地に創設されたが、昭和十三年現在の古庄に移転し、その後、昭和四十二年改築落成された。卒業生六千三百名を送り出している県中部の農業教育の中心機関である。園芸科、柑橘科(二学級募集)の二科に学ぶ生徒は、ほとんど専業農家の長男であり、静岡市、清水市、庵原郡を中心に志太、榛原地方、遠

くは伊豆半島の東西各地から入学している。卒業後もほとんど農業自営についており、地域の施設園芸や柑橘経営の中心者となって活躍している。更に、農業の関連学科として、食品化学科、農業土木科、造園の三科があり、いわゆる、就職コースとして卒業生は地域官公庁、企業に進出活躍しており評判がよい。これら関連学科の生徒もその学科特徴をしたって静岡庵原地区以外の県内各地からの入学生が増えつつあり、卒業生も県外大手企業に進出している者が年々増加している。

真実・自律・友愛の校訓のもと、生徒の真面目にして勤勉な態度と、規律ある行動はこの学校の見所であるが、PTA活動にも工夫と特色があるので、二紹介して見よう。

〇PTA会報の発行

昭和四十四年創刊号を発行、本年四号を企画している。発刊の趣旨は、PTA総会や学級父兄会及び学校祭等で、父兄の学校への出入りは年数回数えられるが、父兄の多くが農家であり、季節的に仕事の繁忙も多く、時期によっては学校と疎遠にもなり、子供の指導もおおざりになり易い。それだけに一層何等かの手段で学校と父兄との連絡、共通理解を深める事が大切である。そこで、その一助としてこうした時期をねらって年二回の会報発行を企画している。

既刊の会報を見せて頂いてその特色を拾って見た。「断絶時代/家庭教育こそ緊要」「子供等のため、襟を正そう」おやし放談」などは会員の教育上の寄稿をのせて相互の参考になっている。「各地熱心に問題点を討議」「盛況だった第二回地区



恵まれている静岡農業高校

会」は各地における地区会の内容を掲載し、他地区の状況を公表している。「宇都宮農高視察記」は視察旅行の会員の参加記事で、会員の気付いた他校の運営の長所などを紹介している。「学校便り」は期間中の学校事象の大小さまざまな記事を取扱っている以外に「冬季校外生活指導のポイント」「後期行事予定決る、生徒指導の参考に利用を」など、学校側の生徒指導の考え方、留意点を啓蒙している面も多い。特に三号は増頁して、高P連役員研修会の折の野田芳平先生の講演「高校生生活指導の問題点」の記録全文を掲載、研修効果を全会員に広く及ぼそうと意をほらっている。

○地区会（支部会）の開催

この学校のP.T.A組織は理事三十九名で、理事は支部長を兼ねている。静岡庵地域の中学校区毎に三十七支部を編成、それに県東、西の二支部を置いている。支部会員は十乃至四十名位である。普通高校など

によく見る学級役員は選出されていないが、主任と父兄の面接懇談は年二回を計画実施している。P.T.A組織活動の重点は支部（地区）においているのである。

ずっと以前から地区会は実施されていたが、兎角酒食が入り派手になって問題点もあしりばらく中止していた。山田晴美校長になって、昭和四十四年度に役員会を経て再会された。酒食を廃し、茶菓丈の支部会として再出発した理由は、学校父兄会の主任との面接は、兎角わが子中心の成績、進路などの個人懇談になりがちである。今日の複雑多様な社会情勢の中での教育では地域ぐるみの活動や、地域の実態を正確に把握することが大切である。支部会の運営に よっては、学校側も父兄の意見を充分に聞く事が出来、又膝を交えて語り合う中に、学校の教育方針や重点を理解して貰う事が出来る。或は会員相互の芋洗の研修効果も期待出来るし、教師が地域を知る一つのチャンスでもある。（農業高校の性格上特に必要）

本年度は、第三年目の実施であるが、七月八日からのテスト期間の午後を利用して八支部、八月二日から九日までに二十一支部計画されている。校長班と教頭班が毎日二ヶ班出かけるわけで、各班にはP.T.A係、支部担任、生徒課員、科の係が含まれ五、六名である。各班は午前九時から十二時まで一支部、午後一時半から五時までに一支部、計一日二支部の会合に出席して帰る。会場は公民館、農協、中学校が多く、支部の設備であり、更に支部役員は事前に運営について相談し、問題点をしぼったり、発言の活発化をねらって下準備している。

前年度の実情を見ると出席率は平均七五

%、学校での父兄会は母親が多いのに、支部会では父親が圧倒的に多い。これは学校側も望んでいるところである。多く出ている話題は生活態度、家庭の躰、家庭学習、交通安全対策、学校のクラブ活動、農業後

東海四県会議に

教職員問題と生徒指導問題

ブロック研修の東海四県会議は、六月二十三日、岐阜市長良館に開催されて、本県からは八名参加、次の協議題が発表された
(一)教師としての優秀な人材を確保するため
(二)「P.T.Aの体質について改善すべき点は何か」

静岡市立高 会長 永田正雄氏

(全国大会で発表されるので本誌省略)

(一)「P.T.Aの体質について改善すべき点は何か」

椋原高校 会長 田崎敬治氏

本校で起きた、交通事故問題から反省して、私は、P.T.Aのあり方ということ強く考えさせられている。

P.T.Aは平素どのような態勢を整えておくべきか。

家庭教育を、如何に充実するか。

社会における教育環境を、そして、どのように整備するか。

事故を起さないが車を乗用している生徒は実に多い。家庭だけで済む問題ではなく、地域ぐるみで強力にいかなくては、交通事故の絶滅を図ることはできない。

社会には、不良図書、不良映画、そのほか教育上不良のものは、検挙に暇がない。正常な教育を推進するP.T.Aとしては、相

継者指導のあり方などである。なお、支部によっては年二回、三回開催している支部も一部にあるという。(H訪問記)

携えてこれらのものを排除し、環境の浄化に努めなくてはならない。

それと共に、家庭においては、躰を重視し、生徒自らが、これを排除できるように正しい考え方を身につけさせなければならぬと思う。

P.T.Aの経理に関しては、教育予算をもっとも増額して貰いたいと思う。静岡県で幸い、父兄負担の軽減を図っていたにしているが、高校教育のために、未だ多く



(発表する田崎敬治氏)

の公費の必要なものが考えられる。PTAの本質に戻って、今後改善していかななくてはならないものがある。

(文責—事務局長)

このほかの協議題は、
教員給与の技本対策(愛知)
教育の中立性確保について(愛知)
教職員の給与改善について(三重)
高校生の保健対策について(三重)
連合PTAとしての組織ならびに、その活動について他県の状況を伺いたい

(岐阜)

高等学校教育を振興するためにPTAは今後如何に活動すべきか(岐阜)
以上で、田崎さんの発表は、三重県の出した「生徒指導」に含まれて全国大会で発表されることになった。

研修

県教委主催の

高校PTA指導者研修会

(第一回)

五月二十日

文部省委嘱、県教育委員会主催の第一回PTA研修会は、五月二十日、静岡県教育会館に開催された。これは、研修実践を強化する目的で、地域指導者の養成を意図したものである。

◇午前の部

小・中・高校PTAの代表を一堂に集めて、県教育長の挨拶があって、日程説明の後、「極地生活を顧みて」と題して、元南極越冬隊長、現千葉工業大学教授の鳥居鉄



東海4県会議へ(別に4人)

1 ニングが必要かということを感じず。一人でコントロールすることは、なかなか出来ない。グループを作る必要がある。

自然の厳しさを知らないのが一番困る。これくらいは、自分は平気だ、ということが事故を起す基になり易い。氷雨が顔に当たって出血するような激しい嵐の日は、飯を食いに行くことも、塵埃を捨てに行くことも禁止される。何このくらいは、と、とび出して行く、規律を守らないところに事故が起きる。

自由時間(日曜)でも、外出は二人以上とか、行く先、帰る時間、目的、内容を届け出て行くことになっている。三十五年十月十日、福島隊員は、嵐の中へ、塵埃を捨てにとび出し、風に吹き飛ばされて見えなくなった。七日探して遂に判らず、奇しくも七年経って、帰国しようとしたこの二月、四キロも離れた所の雪の中から、ありし日のそのままの姿で見つかったのであった。若い人には、ルールを守ること、いざという時、どうあるべきか、しっかりした指導が大事である。

南極は、世界十二ヶ国が協力して観測に当たっている。それ故か、祖国愛が生まれ、祝日には素早く国旗を揚げようとするほど、日本のためという観念が育つように思う。

孤立した集団社会では、仕事がないことが最もつらい。ノイローゼにもなりかねない。それから、一人で多ぜいの人を握るということはできない。グループ(五人位)で互助が大事だと思ふ。なお、一人ぐらゐり変り者を入れておくとよい。それが却て退屈しないで過すことにもなる。」

(以下省略)

◇午後の部

午後は小中と高校部に別れて研修協議に移った。

高校PTA部会では、藤森会長のあいさつの後、研修テーマである「性教育」に因んで、「こんにち十三才」の 슬라이ドが上映され、続いて事例発表と、質疑討論が行なわれた。事例発表されたのは、静岡市立高校の成沢剛先生と、橋高校の鈴木直善先生で、内容は先の上映スライド「こんにち十三才」に関するアンケートをとったものであった。

○成沢先生の発表の中から

高校生の性犯罪は増加している。テレビの露骨な性生活の映し出しなども影響が大きいと思う。以前は少しのことでも女の子が職員室へ駆け込んできたが、近頃はお尻をまくられたぐらいでは飛んで来なくなった。

一九七二年はセックスが問題だという。ワン・ツウ・スリー、という言葉が使われているが、お父さんやお母さん方は知らない人が多い。生徒は七五%も知っている。これは、キッス、ベッティング、ズバリ、という言葉の暗号だという。学生で経験のあるものが二五%。

さて、アンケートに対する受け止め方はどうであったか。

一、このスライド程度の知識を得たのは、十三才、十四才が圧倒的に多い。この年令期に適切な性教育が行なわれるべきであらう。
二、性知識を得た方法として、友人、週刊

誌によるものが多いが、これから正しい性知識を得たものと思えない。この時期に学校、家庭に於て正しい性知識を与えらるべきである。「その他」の項目に相当数あるがこの中に親や教師がどの程度含まれているか疑問である。

三、このスライド程度の知識については、高校生の段階ではほとんど承知しており、もっと高いレベルの知識を望んでいるようである。例えば人間の男女の性行為そのものに関心が持たれているようである。

四、性について悩んだことのある生徒が約半数もあり、その解決が充分かつ適切に行なわれていない。性についての相談相手が必要であり、又、その悩みに答える性教育が行なわれるべきである。

五、生徒はこのスライドは性教育上好ましいものとして評価しているようである。このスライドで正しい知識を得たものがあったことはそれ以前に誤った性知識を得ていたことになる。

六、このスライドは中学生には適当なものであると確信がもてるが、高校生が望んでいる程度の性知識を与える適当な映画スライドなどは、現在皆無である。マスキミの誤った興味本位のドギツイセックス攻勢に高校生が相当の悪影響を受ける可能性が高い。一日も早く高校生向けの正しい性教育のカリキュラムと教材が用意されなければならない。「こんには十七才」の完成が望まれる。

七、高校生には、さらに高いレベルの性知識と性の問題の解決法と男女の性のモラルをあわせ指導すべきである。スエーデン方式は日本の未婚者の性教育には不適当である。

○鈴木先生の発表の中から

中学三年と、高校三年では、違うことがはっきりしている。性についての知識が正しくなく、早く、多く知らされる。

昭和四十一年の例
雑誌の有害性

マンガの本、小学三年—四年頃
処理法を知らない子どもである。

性教育をどのようにして、生徒の中へ入れていくかが課題だ。有害図書は駆逐については、耳にする事実は多いが、打つ手があるだろうか。スライドを見せて教えるとして、八〇％位は正しく受けとめても、後の一〇％位は考え方を誤らないかと心配する。

日没後の女子の外出などは、絶対に禁止したい。

ここで考えられることは、子ども本位にならない親でありたいということである。親の言う事を聞く子に育てて貰いたい。性の発達とともに与える言葉が違う。ほめる事と叱る事を正しくやれば直る。よい子になる。

父だけの教えずでなく、隣人とか、書物とかが常に必要な。父兄は常に、学校を信頼し、素地性が大切である。

◇助言者の言葉

○相佐校長(静岡)

汎濫している俗悪図書、週刊誌を一目見ただけでも驚くほどで、実態を知らないのは、教師と、親ばかりなりと言う。子どもは熱心に読んでいます。精神的な公害は誠に大きい。私はそうした有害なものを排除し、環境浄化に努めることは大事だと思いが、抵抗力をつけるということがもっと大切だと思っている。つまり、正しい判断力

をつける事だと思う。

清纯な子があり、汚染された子があり、と考えると、教育は個別に考えていくべきであると思ふ。

○渡水校長(浜松西高)

貴重な発表をいただきありがとうございました。昨日、私の学校で講演があり、「優位に立て」というものであったが、昨年度、不純異性交友の件で二人の退学があったことと思ひ合わせ、セックス以前の問題を重視しなくてはならない。特に、モラルが大事だ。そうしたことを奨めるのは小さい時からで、親のいうことを聞く子、教師のいうことを聞く子に育てたいと思ふ。

○三浦先生(学校教育課)

生涯教育ということが言われているが、学校と、学校以外の教育が考えられる。性教育についてはその位置づけを考えなくてはならないと思ふ。不純異性交友について県警では、昭和四十五年度、一、八八七人と発表された。発表以外の者もあるだろう。その中に、車を利用してという者が七〇％。こうしたことは単純には考えられない。ほかのものと同連して事は起っている。学校教育課では、社会の変転に伴って道徳教育の方から、モラルの中の問題として指導に努めていきたい。

○前田先生(青少年対策室)

俗悪な環境は今に始まることではないが、環境整備審議会によって、図書や、映画を調査し、有害物の排除に努めている。性教育については、それ以前の問題がある。1 どんな時に生甲斐を感じるか

—仕事、勉強、スポーツ

2 お父さんに対しての子どもの態度

—厳しく、理解して、見守る

3 男女交際について

親は知っていない(五〇％)

その他、男女のあり方等について話された。

◇賞詞

須原耕雲老師の講演記録はよくできました。本校では、PTA会員に多数頒布して、研修を深めます。

(七月二日 静岡東高校長)

拝復、学校行事多忙の折、先生方のご苦勞に對し、厚く御礼を申し上げます。

さて、本日ご送付いただきました、須原耕雲師のご本、「裏筋を生かすこと」実は、昨年の研修会に家内が出席し、この講演を聞きまして、大変な感動振りでした。もう一度このお話しをと思つていましたところへ、この記録が届き、夢かとはかり喜びました。

このような講演を生徒の皆さんと共に聞かれますことを、心より希望しております。本当に有難うございました。

先ずは御礼までに

七月七日

静岡市駒形通 深沢 正之

昭和四十六年七月二十五日印刷
昭和四十六年八月 三日発行
編集発行者
静岡市追手町九番六号

静岡県庁別館三階社会教育課内
静岡県公立高等学校PTA連絡協議会
電話(〇五四二) 〇八二二三
郵便番号 千四二〇